2013年度 国際金融論 ガイダンス

担当　岩村 英之*

2013年4月8日

1　講義の概要

どのような問いを扱うのか

- 為替レートはなぜ変動するのか – 短期・中期・長期の変動要因
- 為替レートの変動は経済にどのような影響を及ぼすのか
- グローバル経済において，外的なショック（自国・外国の政策変更，金融危機など）が為替レートも含めたマクロ経済変数にどのような影響を及ぼすのか
- 為替レート制度の相違は各国経済のパフォーマンスにどう影響するのか（あるいは影響しないのか）
- 実際に各国はどのような為替レート制度を採用し，どのような経験を積んできたのか

どのように扱うのか –モデルを用いた分析

本講義では，これらの問いを**経済学的な観点から**考察していきます．経済学的に考察するとは，すなわち「モデル」を用いて考察するということです．

たとえば消費増税の効果を考察するとき，経済学者は最初に現実の経済を単純化して一種の「ミニチュア経済」をつくります．現実はあまりに複雑で，正面から立ち向かっても消費増税の効果を厳密に突き止めることは不可能です．そこで，ミニチュア経済において消費増税を「実験」することで，現実の経済における効果を考察する手掛かりとするのです．このミニチュア経済のことをモデルと呼びます[1]．本講義で扱うような国際金融に関連する問いを考察するためには，外国と貿易・金融取引を行う経済を描写するモデルが必要です．そこで，そのようなモデルのひとつとして Krugman, Obstfeld and Melitz(2011) の提示するモデルを学び，これを用いて思考実験をすることで上記の問いに対する答えを導いていきます．

ところで，モデルを動かすには，モデルの構造をある程度知らなければなりません．そして，モデルの構造を知る最短経路は，実際にモデルの構築作業をフォローしてみることです．そこで，本講義の前半は，KOM モデルを作り上げていくプロセスの解説に当てられます．

なお，本講義は「知る」講義ではなく,「理解する」講義を目指しています．断片的な事実・命題を提示してひたすら暗記力を問うものでもなく，公式を記憶させてひたすら応用問題を解かせるもの

*明治学院大学 国際学部

[1]経済モデルは物理的なミニチュアではなく，実際は何本かの方程式によって表現される仮想世界のようなものです．しかし，本講義ではグラフ等を用いることで極力数式に頼らずに，モデルを構築していきます．逆に，数学が得意であるという人は，シラバスで紹介した参考書などにあたって方程式体系として表現されたモデルを見ることで，かえって明快に理解できるかもしれません．

でもありません．むしろ，その命題や公式がどのようにして導出されたのかを，最初の一歩から端折らずに解説していきます．これは，皆さんが大学卒業後に求められることは，これまで経験しなかったような問題に対処するために**新たに公式を生みだす**ことだからです．誰かが考えた結果のみでなく，どう考えたのかを見ておくことで，本講義は経済学研究を志す以外の人にも意味のあるものとなるでしょう．

2　講義スケジュール

受講者の興味・関心，理解度，あるいは私たちにコントロール不能な出来事によって変更する可能性があります．

第 1 回	4/8	ガイダンス	
第 2 回	4/15	為替レートの決定理論：金利平価	モデルの構築
第 3 回	4/22	利子率の決定（1）：貨幣，債券，利子率	
第 4 回	4/30	利子率の決定（2）：利子率と為替レートの同時決定	
第 5 回	5/13	国民所得統計・国際収支統計	
第 6 回	5/20	GDP の決定：45 度線分析	
第 7 回	5/27	中間試験	
第 8 回	6/3（⋆）	マクロ経済の均衡：為替レート，利子率，GDP の同時決定	
第 9 回	6/10	開放マクロ経済の比較静学	モデルを用いて政策・制度・歴史を考察
第 10 回	6/17	為替レート変動の長期的傾向：購買力平価説	
第 11 回	6/24	為替レートを固定する：固定相場制	
第 12 回	7/1	為替レートの消滅：欧州通貨統合	
第 13 回	7/8	途上国と為替レート：通貨危機	
第 14 回	7/15	資本移動の動学理論（1）	再びモデル
第 15 回	未定	資本移動の動学理論（2）	

3　前提とする知識（ミクロ/マクロ経済学・数学について）

「マクロ経済学 1」の内容を 7 割程度理解していることが望ましいです．しかし，そこで教えられている内容も含めてこの講義で必要なことは必要最低限復習するので，厳密な意味での前提科目とはしていません．一部，ミクロ経済学の分析手法も用いる予定ですが，これについても最低限は講義内でカバーします．

数学については，高等学校の数 2・数 B の教科書レベルを超えることはありません．もちろん，それらについても登場する度に最低限の解説は行います．

4　講義のウェブページ

私のウェブサイトにこの講義のページを作成しています．課題・試験等に関する情報は全てここにアップしていきます．配布資料がある場合も，必ずここにアップします．また，2011 年度・2012 年度の本講義の様子（試験問題を含む）も知ることができます．

`http://www1.meijigakuin.ac.jp/~iwamura/`

配布資料や課題は SFC-SFS の講義ページにもアップします．

5　参考書

[**1**] P. Krugman, M. Obstfeld, & J. Melitz, *International Economics: Theory and Policy, the 9th edition,* Addison Wesley, 2011.

世界でもっともよく用いられている国際経済学のテキストです．ほぼ 2-3 年に 1 回のペースで改訂されています．前半部分が国際貿易論，後半部分が国際金融論・国際マクロ経済学を扱っています．**講義はほぼこの本の後半の内容に沿って進めていきます**．講義では，本書で提示されている，為替レートを含めた国際経済の動きを記述する枠組である「DD-AA モデル」を，その構築から適用まで説明します．

[**2**] P. クルーグマン，M. オブズフェルド（山本章子・訳）,『クルーグマンの国際経済学 下 金融論』, ピアソン桐原，2010 年.

[1] のひとつ前の版（第 8 版）の後半部分（国際金融・国際マクロ）の翻訳です．

[**3**] 岩田規久男,『国際金融入門 新版』（岩波新書 1196），岩波書店，2009 年.

現日銀副総裁による一般向け入門書です．新書なので，経済学自体の初心者にもわかるよう丁寧に書かれています．制度・理論・歴史のいずれにもページが割かれていて，新書としてはたいへん贅沢な内容です．この分野を初めて学ぶ人が，短期間で全体像を掴むのに適しています．

[**4**] 高木信二,『入門 国際金融』（第 4 版），東洋経済新報社，2011 年.

[**5**] 深尾光洋,『国際金融論講義』，日本経済新聞社，2010 年.

[**6**] 藤原秀夫，小川英治，地主敏樹,『国際金融』（有斐閣アルマシリーズ），有斐閣，2001 年.

[4][5][6] は，ミクロ・マクロ経済学と経済数学をある程度勉強した人を対象としたテキストです．私の講義に物足りなさを感じた場合，是非目を通してみてください．KOM に較べて多くのモデルが紹介されていますが，各モデルの説明はかなり簡潔になっています．

[**7**] N. グレゴリー・マンキュー（足立他・訳）,『マンキューマクロ経済学 第 3 版 I 入門篇』,『マンキューマクロ経済学 第 3 版 II 応用篇』，東洋経済新報社，2012 年.

国際金融論の大部分は，マクロ経済学を外国との貿易・金融取引が存在するケースに拡張したものです．したがって，マクロ経済学の勉強はそのまま国際金融論へとつながります（実際，本講義の半分くらいはマクロ経済学の解説になります）．本書は，そのマクロ経済学の世界標準のテキストです．“経済学部の”3,4 年生向けですが，記述が丁寧なのでじっくり取り組めば 6-7 割は理解できるでしょう．ちなみに，本書は原著第 7 版の訳ですが，原著 *Macroeconomics* は第 8 版が出ています．

これ以外に，個別のトピックに関連する参考書・論文を随時紹介していきます．

6　成績評価

- 中間試験（30%）と定期試験（50%）の点数に加えて，平常点（主として小テストで評価する，20%）をもとに総合点を計算し，受講者の得点分布を加味して最終成績を決めます.
- 中間試験（5 月 27 日実施予定）については，再試験等の代替措置は講じません．理由の如何に寄らず，受験しなかった場合は 0 点として扱われます（定期試験を受験する権利は残る）.
- 定期試験についても，学則によって代替措置が求められる場合を除いて代替的評価は行いません.
- 出席だけを総合点に加算することはありません．ただし，経済理論の科目ですので，毎回の講義がそれまでの講義を基礎として成立することは心得ておいてください.

7　質問等

- 担当者は非常勤なので講義の時間以外はキャンパスにおりませんが，講義終了後に数名程度ならば質問をお受けすることができます．声をかけてください.
- E メールでも質問・相談受け付けます（`iwamura@k.meijigakuin.ac.jp`）．SFC-SFS の授業ページを通じて質問していただくよりも，上記メールアドレスに直接ご連絡いただくほうが迅速にお返事できます.